

## 平成 27 年度八戸市復興計画推進市民委員会意見への対応状況 (平成 28 年 5 月末現在)

### 2. 地域経済の再興

市では平成 27 年度に八戸市復興計画推進市民委員会を 4 回開催し、委員の皆様から御意見をいただきました。

本資料は、「2. 地域経済の再興」への御意見に対する平成 28 年 5 月末現在の市の対応状況についてとりまとめたものです。

なお、対応状況は、下記区分のとおりです。

#### 【対応状況の区分】

- ＝意見をふまえ対応に努めている
- △＝意見を参考に検討段階
- ×＝意見への対応が難しい

#### 復興計画全体に関する総括意見

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
1	各対応状況 のとおり	<p>「地域経済の再興」については、東日本の水産業をリードするための各種施策や農林畜産業の振興を図る取組、更なる企業誘致を進めるための新たな工業団地の整備を推進するとともに、ユネスコ無形文化遺産への登録が期待される八戸三社大祭の振興策の検討、インバウンド対策など、観光客の受入体制の充実を図ること。</p> <p>◎東日本の水産業をリードするための各種施策の推進について 【水産事務所】 意見No.6～8 で回答</p> <p>◎農林畜産業の振興を図る取組の推進について 【農林畜産課、農業経営振興センター】 意見No.9～12 で回答</p> <p>◎更なる企業誘致を進めるための新たな工業団地の整備の推進について 【産業労政課】 意見No.14 で回答</p> <p>◎八戸三社大祭の振興策の検討について 【観光課】 意見No.22 で回答</p> <p>◎インバウンド対策の実施について 【観光課】 意見No.5 で回答</p>	<p>【水産事務所】</p> <p>【農林畜産課】</p> <p>【農業経営振興センター】</p> <p>【産業労政課】</p> <p>【観光課】</p>

# 復興計画に掲げた4つの基本方向ごとの意見

## 2 「地域経済の再興」に関する意見

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
2		水産業の再興については、東日本の水産業をリードするため、EU 登録ハサップ対応型荷捌き所を広く PR し、その利用促進を図るとともに、養殖事業の強化のための調査研究及び水産加工品のブランド化推進のための更なる PR に取り組む必要がある。	【水産事務所】
	各対応状況 のとおり	<p>◎EU 登録ハサップ対応型荷捌き所の利用促進について 意見No.6 で回答</p> <p>◎漁協等と連携した養殖事業の強化のための調査研究の推進について 意見No.7 で回答</p> <p>◎水産加工品のブランド化推進のための更なる PR について 意見No.8 で回答</p>	
3		農林畜産業の再興については、就農希望者に対する各種支援の推進や畜産業の振興のための施策に取り組むとともに、グリーンツーリズムの推進のため、市ホームページ等インターネットを活用した情報発信や体験メニューの充実による受入体制の強化が必要である。	【農業経営振興 センター】 【農林畜産課】
	○	<p>◎就農希望者に対する各種支援の推進について 【農業経営振興センター】 意見No.11 で回答</p> <p>◎畜産業の振興のための施策の実施について 【農林畜産課】 意見No.9 で回答</p> <p>◎グリーンツーリズムの推進のための受入体制の強化について 【農業経営振興センター】 意見No.10・12 で回答</p>	
4		企業活動の再興については、雇用の場を確保するため、更なる企業誘致を進め、新たな工業団地の整備を推進するとともに、海外販路の拡大による貿易の振興を図るため、ハラル認証制度の食品関連業種等への周知を図るなど、新規の販路開拓を検討する必要がある。	【産業労政課】 【商工課】
	○	<p>◎更なる企業誘致の推進について 【産業労政課】 八戸セミナーの開催、企業立地ガイドブックの作成、ホームページのリニューアル、補助制度の拡充、企業訪問、企業立地に係る情報収集の実施等により、企業誘致を推進しております。</p> <p>◎新たな工業団地の整備の推進について 【産業労政課】 意見No.14 で回答</p> <p>◎ハラル認証制度の食品関連業種等への周知を図るなど、新規の販路開拓の検討について 【商工課】 意見No.15 で回答</p>	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
5		観光・サービス業の再興については、ユネスコ無形文化遺産への登録が期待される八戸三社大祭の山車製作支援や観光展示の検討、三陸ジオパークの多方面での活用、多言語での PR やインターネット接続環境の整備などによるインバウンド対策の推進、市民観光ガイドの育成など、観光客の受入体制の充実に取り組む必要がある。	【観光課】
	○	<p>◎八戸三社大祭の山車製作支援や観光展示の検討について 意見No.22 で回答</p> <p>◎三陸ジオパークの多方面での活用について 意見No.20 で回答</p> <p>◎多言語での PR やインターネット接続環境の整備などによるインバウンド対策の推進について 新たな観光専用ウェブサイトの英語版を作成し公開しております。平成 28 年度中に中国語(繁体字・簡体字)版・韓国語版のウェブサイトを整備予定です。</p> <p>◎市民観光ガイドの育成について 意見No.19 で回答</p>	

## 個別の施策・事業に対する意見

### 2 「地域経済の再興」

#### (1) 水産業の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
6		ハサップ対応型荷捌き所の稼働率向上を図るため、施設利用・運用の改善、水産加工場等の EU 登録への支援、EU 登録市場の PR 等を積極的に行い、市場開拓に努める必要がある。	【水産事務所】
	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北部太平洋まき網漁業協同組合連合会所属船に対し、EU 登録を PR しながら誘致を図っていきます。</li> <li>・施設利用の利便性向上のため、受入体制の整備として、運搬車両の配車に係る問題について検討しています。</li> <li>・EU 認定を目指している加工業者へ水揚げ時の保管容器の貸出し、海水シャーベットの無償提供等で取組を支援していきます。</li> </ul>	
7		今後、国内の養殖業の割合が大きくなることが予想されることから、本市においても養殖事業について、引き続き漁協等との連携を図り、調査・研究を進めていく必要がある。	【水産事務所】
	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協において、コンブの養殖事業を行っています。</li> <li>・新たな養殖(陸上養殖等)の可能性に関する調査研究を進めていきます。</li> </ul>	
8		水産加工品のブランド化推進のため、多くの市民にアピールできるよう、デパートやショッピングセンターなどで PR をする必要がある。	【水産事務所】
	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年 8 月に「第 2 回ご当地イカ料理コンテスト」をはっちで開催(応募作品 40 作品)しました。</li> <li>・平成 27 年 10 月に「第 6 回いか・さば祭り」を、11 月に「第 9 回八戸前沖さばアイデア料理コンテスト」を八食センターで開催しました。</li> </ul>	

## (2) 農林畜産業の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
9		畜産業の振興のため、畜産施設規模要件基準の更なる緩和について県に対し働きかけるとともに、関連企業の誘致を推進する必要がある。	【農林畜産課】
	○	<p>◎畜産施設規模要件基準の更なる緩和に係る県への働きかけについて 環境影響評価を所管している県に対し、平成 26 年度より最重点要望事項として環境影響評価に係る畜産施設の規模要件の緩和を要望し、今後も継続して要望の予定です。</p> <p>◎畜産関連企業の誘致の推進について 「八戸地域畜産関連産業振興ビジョン」に基づき、八戸市を含む八戸圏域定住自立圏の区域内における畜産関連企業の誘致に向けた新規立地希望の把握・立地条件の検討を今年度から実施する予定です。</p>	
10		グリーンツーリズムの推進について、多様な年齢に応じた PR となるよう、パンフレットの他、インターネットを活用した情報発信を検討する必要がある。	【農業経営振興センター】
	○	<p>インターネット、フェイスブックのほか、ラジオにて情報発信を行っています。</p> <p>また、開園式への保育園・幼稚園児の招待も情報発信の機会と捉え、今後も引き続き継続してまいります。</p>	
11		農業の担い手の育成と経営の安定を図るため、新規就農者に対する給付金の支給及び農業技術や経営手法等の支援について、今後も推進する必要がある。	【農業経営振興センター】
	○	<p>平成 24 年度から新規就農者に対し、最長 5 年間、年額最大 150 万円を給付する国の青年就農給付金事業を実施しています。</p> <p>また、平成 24 年度から八戸学院大学と連携し、農業経営に特化した内容の「八戸農業ビジネスナイトセミナー」を開講するとともに、平成 25 年度から、新規就農者を対象とした農業技術を習得するための実地研修を当センターの圃場を利用して実施しています。</p>	
12		南郷におけるグリーンツーリズムの活性化に向け、市民が体験する機会を設け、意見の反映により体験メニューの充実を図るなど、受入体制を強化する必要がある。	【農業経営振興センター】
	○	<p>これまでのアンケートの回収状況により判明した、周知が必要と思われる観光農園(ブルーベリー)に対し、今後は情報発信を中心に力を入れていくとともに、アンケートについても引き続き実施する予定です。</p>	

## (3) 企業活動の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
13		今後の海外マーケットの拡大については、人口が多く、経済効果が見込める中国、東南アジア、インド、アフリカ等の地域を検討する必要がある。	【商工課】
	○	<p>平成 28 年 1 月に、八戸市、弘前市、おいらせ町の主催により、ベトナム(ホーチミン市)の「イオンモール」で、青森県産品フェアを実施しました。平成 29 年 1 月には、青森市、東北町、新郷村も加えた 6 自治体で、第 2 回目のフェアを首都のハノイ市で開催する予定です。</p>	
14		北インター工業団地の分譲がかなり進んでいるため、今後の企業誘致を進めるにあたり、新たな工業団地を整備する必要がある。	【産業労政課】
	○	<p>新たな産業団地整備に向けた基礎調査を実施し、整備候補地の選定を進めています。(平成 27 年度～)</p>	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
15		海外販路拡大事業について、今後、国内外でのイスラム圏の市場拡大が予想されることから、特に食料品関係のハラール認証制度について関連する企業への周知を強化する必要がある。	【商工課】
	○	今年度、平成 26 年 6 月以来となるハラール関連セミナー(JETRO 主催)を、八戸市内で開催予定です。	

#### (4) 観光・サービス業の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
16		当市の観光情報等をインターネットを通じ多言語で情報発信するとともに、Wi-Fi 環境の整備を推進する必要がある。	【観光課】
	○	◎観光情報等のインターネットを通じた多言語での情報発信について 平成 28 年 4 月 25 日、新たな観光ウェブサイト「八戸観光Navi」日本語版・英語版を開設しました。平成 28 年度中に中国語繁体字版・簡体字版・韓国語版についても作成する予定です。	
	△	◎Wi-Fi 環境の整備の推進について 市内観光関係事業者の Wi-Fi 環境整備やメニューの多言語化などインバウンド対策を促進する県補助金の紹介や国の活用可能な補助制度等を研究・情報収集し、環境整備について検討してまいります。	
17		南郷ツーリズムと連携し、市内に宿泊を伴う事業を検討する必要がある。	【観光課】
	△	宿泊を伴わせるためには、横丁と朝市のように夜と朝の観光素材が必要になります。これまで南郷の方々とそれぞれの素材について検討してきましたが、受入体制が整わず、プログラムの造成には至っておりませんが、引き続き南郷への誘客促進に努めてまいります。	
18		中心街活性化のために、八戸駅周辺に宿泊している外国人観光客を中心街へ誘導する仕組みを検討する必要がある。	【観光課】
	○	JR八戸駅に英語対応の案内板を設置したほか、八戸総合観光プラザに英語、韓国語、中国語に対応可能なスタッフを配置するなど、中心市街地へ 10 分間隔で路線バスが運行している公共交通のアクセス状況を説明できる体制が整っております。 また、観光専用ウェブサイトについては英語版を公開済みで、中国語(繁体字・簡体字)版・韓国語版のウェブサイトを整備中です。	
19		観光客の受入体制の充実、市民の郷土に対する誇りや郷土愛の醸成を図るため、観光ガイドの育成等の事業を推進する必要がある。	【観光課】
	○	着地型旅行商品「街歩き」に焦点をあててガイドを育成する街なか案内人育成事業や、種差海岸の新規及び既存ガイドの養成、資質向上等を行う種差海岸ガイド等受入体制整備事業に取り組み、観光ガイド育成を推進しています。	
20		三陸ジオパークの推進について、観光客はもちろんのこと、地域学として市民も気軽に楽しめる企画を検討する必要がある。	【観光課】
	○	平成 27 年 9 月 4・5 日に市内のジオサイト等をバスで巡るジオツアーを開催し、市内外から 72 名の参加者があり、ジオパークに親しみました。また、10 月 20 日には種差小学校にて 5・6 年生を対象にジオパーク授業を開催し、種差海岸の成り立ち等について学びました。今年度は、ジオサイトを巡りながら自然や食、文化等様々な視点からジオパークの魅力を気軽に体験し、理解を深めるジオツアーを予定しています。 今後も観光客や市民の認知度を向上する各種施策を実施していきたいと考えています。	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
21		美術館連携事業について、今後も昨年度の「ねこ展」のような美術館と中心街が一体となった事業を推進する必要がある。	【まちづくり文化推進室】
	○	美術館特別展「魔法の美術館」にあわせ、中心商店街の協力店舗において「半券サービス」を実施したほか、同店舗にミニのぼりを設置して、特別展のPRを行いました。	
22		ユネスコ無形文化遺産への登録が期待される八戸三社大祭について、山車の製作場所確保や観光展示などを検討する必要がある。	【観光課】
	○	<p>八戸三社大祭の山車は、伝統的に各町内の山車小屋で製作され、そこに地域の人々が参加することによって受け継がれてきた祭りであり、その製作場所は、山車組が主体となってそれぞれの地域に確保することが望ましいと考えております。しかしながら、どうしても山車製作用地を確保できない山車組もあり、市では一部の山車組について、市有地を一時的に山車製作用地として提供しており、これらの山車組については、山車製作用地として適当な土地がないか、市有地、民有地を問わず引き続き情報収集を行っております。</p> <p>山車の観光展示については、現在、ユートリー1階エントランスホールで行っているほか、市庁舎本館1階、はっち2階などでミニ山車を展示し、通年で八戸三社大祭のPRを行っております。</p> <p>現在、八戸三社大祭のあり方等について、八戸三社大祭運営委員会において八戸三社大祭グランドデザインの検証をしながら、検討しております。</p>	
23		市のホームページについて、知りたい情報に容易にアクセスできるよう、改善する必要がある。	【広報統計課】
	○	現在のページは、生活情報や観光情報などが全て並列に表記されており見づらい状態になっていると考えられることから、トップページでまず観光情報・生活情報・防災情報などの大きなカテゴリを選択する形式にするなど、必要な情報に容易にアクセスできるよう、今年度中に市ホームページを一部改修する予定としております。	
24		八戸の魅力について、縄文に代表される歴史・文化が息づいているまちとしてPRする必要がある。	【是川縄文館】
	○	もっと多くの市民が是川縄文館を訪れ、八戸の素晴らしい縄文文化に親しむためのPRができるよう、文化財展示活動及び教育普及のさらなる工夫を図っていきます。	